

10. (「情報発信の経験あり」回答者のみ) 前問のように考える理由を教えてください。(つづき)

■情報発信して「良かった」

| | | | |
|----|--------|--------|---|
| 本人 | 肺 | 男性 20代 | タバコを吸わなければ癌にならないと信じているようだったから、私はタバコを吸ったことがないのがんを発症したのでそのケースをリアルタイムで伝えられて良かったように思う反面、若年者のがん患者に対する保険なりに入っておく余裕がなかったので、今からその情報をつかむ人にとっては、良かった、いいものを伝えられたように感じます。 |
| 本人 | 前立腺 | 男性 60代 | 早期発見者にとっては術式の選択範囲が多く、転移も無いことから経済的にも良い。このことは個人のQOL維持に役立つのみならず、医療資源の浪費防止にもなり、ひいては国家経済の無駄な支出防止にもなる。 |
| 本人 | 乳房 | 女性 50代 | 自分と同じような考えの人がいることがわかった。また、そうではない人もいとわかった。治療の選択肢が広がり、医師に自分はこうしたいという意見を言うことができるようになったこと。 |
| 本人 | 胃 | 男性 70代 | 例えば、胃がんでは術後ダンピング(ダンブカーと同じ語源で、食べたものが、胃で消化されず、すぐに腸に落ちてしまい、ムカムカする症状)があると理解してもらうには、情報発信しかない。 |
| 本人 | 膀胱 | 男性 60代 | 癌について、まだまだ正確な情報が少なく、また決定的な治療法が確立されていない現状、多くの人に伝え、また情報をもらう。このことが大切なのではないかと確信している。 |
| 本人 | 肺 | 男性 60代 | 皆未知の世界の為、いろいろ悩みを持っているので、悩みが整理できていない人が多い。自分のアドバイスでそれぞれにどう対応していいかの方向性と整理が出来たと思っている。 |
| 本人 | 腎臓・副腎 | 男性 60代 | 私と同じように早期発見、治療で他への転移なしに現在元気に暮らしているという複数の人からメールや葉書もらった。皆さん周囲への積極的な発信をしようと言っている。 |
| 本人 | 子宮 | 女性 30代 | 子宮がんだったので、子どもを持つことをあきらめていた人なども、術後に子どもを産んだという私の体験を見て、希望が持てたと連絡があり、嬉しかったから。 |
| 本人 | 前立腺 | 男性 70代 | 手術後の経過も良好で、現在は健康で趣味の登山も以前のように行っており、近所の人々や友人・知人が「ガンになっても怖がることないねー」と言っている。 |
| 本人 | 子宮 | 女性 60代 | 外見ではわからない悩みや病気を抱えていることを周囲の方に分って貰えたことは良かったと思います。また、同じ仲間との仲間意識も... |
| 家族 | 腎臓・副腎 | 女性 50代 | 家族や自分の悩みを系統立てて考えることができたし、他の患者さんの役にも立っている(情報が増えたということ)と感じられたから。 |
| 本人 | 乳房 | 女性 40代 | お互いの状況を理解し合えるし、同じ境遇であることで励ましあえる。自分だけじゃないと考えることが出来、病氣と闘う勇気をもらえる。 |
| 本人 | 胃 | 男性 70代 | ある友人から、自覚症状について細かく聞かれ、その友人の自覚症状とそっくりだったので、友人は病院に行くと言っていました。 |
| 本人 | 大腸・直腸 | 男性 60代 | リアクションがなくとも、参考にしたい人は必ず目を通すと確信している。そして、少しでもお役に立てれば幸いと思っている。 |
| 本人 | 咽頭・喉頭 | 男性 60代 | 同じ病氣をもった者同志で現在の環境、生き方などで励まし、生きてる実感がし、これからも頑張るって生きていける感じがする。 |
| 本人 | 乳房 | 女性 40代 | 聴く方のお役にたてればよかったと思っていたが、逆に励ましていただいて、希望、勇気、元気など様々なものをいただきました。 |
| 本人 | 甲状腺 | 男性 40代 | がんという病氣が決して、自分から遠いものでも、絶望的な難病でもないと感じてくれた人がいたから。 |
| 本人 | すい臓 | 男性 40代 | こちらの様子を時々伝えるだけで相手方の生活上には何の影響もかけず普通に生活をして貰えるから。 |
| 本人 | 大腸・直腸 | 女性 60代 | 検査が大事である事が伝えられたので、知人が検査を受けに行ったりしてくれて感謝されたから。 |
| 本人 | 精巣 | 男性 60代 | ガンよりも多くの人は前立腺肥大の関心が高い。早く診察を受けることががんも見つかりやすい。 |
| 本人 | 乳房 | 女性 50代 | 専門家と知り合いになれたり、同病の人と実際に会って話をして更に病氣の知識が身に付いた。 |
| 家族 | 胃 | 女性 50代 | 近年特に増えている乳がんについて、検診や一刻も早い診断の重要性を分かってもらえたから。 |
| 本人 | 大腸・直腸 | 男性 60代 | 自分の経験を伝えることで、それがちょっとでも何かの役に立てるのであればうれしいから。 |
| 本人 | 子宮 | 女性 30代 | 自分の近くに癌になった人がいるということで本人も今まで以上に意識してくれていると思う。 |
| 本人 | 前立腺 | 男性 70代 | ドックでは指摘されない個々の精密検査を受診するように、努力していると多々報告有り。 |
| 家族 | 胆道・胆のう | 男性 60代 | リアクションは無かったもののポリープが見つかった時思い起こしてもらえと思った。 |

10. (「情報発信の経験あり」回答者のみ) 前問のように考える理由を教えてください。(つづき)

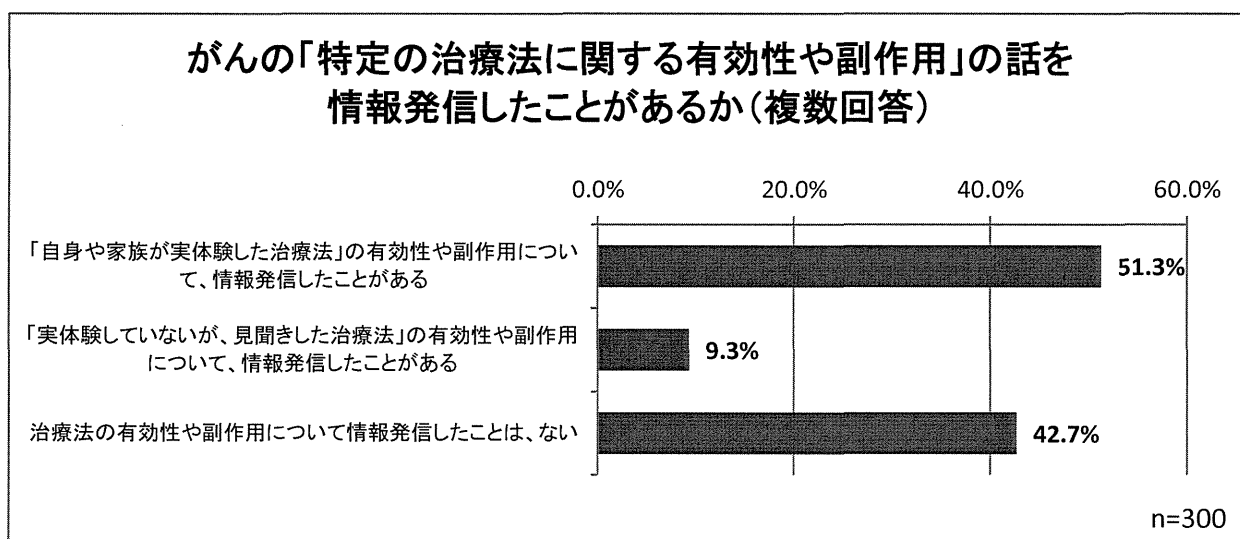
■情報発信して「どちらでもない」

| | | | |
|----|-------|--------|--|
| 本人 | 食道 | 男性 40代 | あまりリアクションが返ってこない。返ってくるようにするためには状況を詳細に表現しなければならず、この病気は個人おのおの抱えている問題が多岐に渡るため、SNSなどのツールではやり取りしにくく、相当相手との信頼関係が築けないと情報交換ができないことがよくわかったから。 |
| 本人 | 胃 | 女性 40代 | 体調が悪くなった時など、ブログ発信が停止してしまって、周囲に必要以上の心配をさせてしまう。癌や死に対しての考え方の違いを執拗にメールで語られて辟易することがある。文章だけで私を判断されてしまって、誤解が多いのも困惑している。 |
| 家族 | 肺 | 女性 60代 | みんなが同じ環境で生きている訳ではないし 考え方や価値観もちがう・・・ガン検診を受けられる人もいれば 結果が怖いからイヤだという人もいるし、経済的に負担をしたくない人もいる。 |
| 本人 | 乳房 | 女性 40代 | 手術前と後とで、人間関係は変わりません。ブログにコメントを残してくれた人は前からの付き合いで乳がんの先輩？(5年経過)。その方からもたくさん情報をもらった。 |
| 本人 | 脳 | 女性 40代 | 後で読んでみて、なんでこんなこと書いたんだろう。。。とか当時の辛かった出来事や周りに迷惑かけたこと・・・等、多々甦って返ってブルーになった。 |
| 本人 | 前立腺 | 男性 70代 | ドクターサイドには何らかのデータ提供になったかもしれないので意味はあったと思うが患者視点では知りたい情報が得られないのは不満かな？ |
| 本人 | 肺 | 男性 50代 | 身近に癌患者がいらないため、反応がなかった。情報提供できたことに自己満足するしかなく、結果、可もなく不可もなくとなった。 |
| 本人 | 前立腺 | 男性 60代 | あまり反応がなかった。その後、質問もされない・・・日本人は自分だけは癌にかからないという変な思いがあるような気がする。 |
| 本人 | 前立腺 | 男性 70代 | それで自分の状況がよくなるわけではない。自分の経験が他のすべての人にも通用するとも思えない。 |
| 本人 | 子宮 | 女性 50代 | 自分の気持ちと記憶の整理にはなったが、特に反響がなかったので、良かったのかどうかは不明。 |
| 本人 | 乳房 | 女性 50代 | 一番の不安は仕事のことだったので、それは情報発信したからといってどうなるわけでもない。 |
| 本人 | 乳房 | 女性 30代 | 治療が終わるまで続けるつもりだったが、大事な人が同じガンで亡くなって書けなくなった。 |
| 本人 | 大腸・直腸 | 男性 60代 | いまや半分の人がガンを経験する時代。ブログで公開したとしても、とりたてて珍しくもない。 |
| 本人 | 前立腺 | 男性 70代 | 自分のがん治療の経験が、ほかのガン患者の方の役に立つのかどうか、実際のところは自信がない。 |

11. (「情報発信の経験あり」回答者のみ) がんの「特定の治療法に関する有効性や副作用」の話を情報発信したことがありますか。(複数回答)

具体的な治療法の有効性や副作用に関する情報発信については、慎重さが伺える。「自身が経験したもの」であっても治療法に関する内容は、情報発信した人のうち5割の人(全有効回答比では5%の人)しか発信していない。「自身が経験していないもの」は1割の人しか発信していない。

| | (MA) | |
|--|------|--------|
| | n | % |
| 「自身や家族が実体験した治療法」の有効性や副作用について、情報発信したことがある | 154 | 51.3% |
| 「実体験していないが、見聞きした治療法」の有効性や副作用について、情報発信したことがある | 28 | 9.3% |
| 治療法の有効性や副作用について情報発信したことは、ない | 128 | 42.7% |
| 小計 | 310 | 103.3% |
| 計 | 300 | |

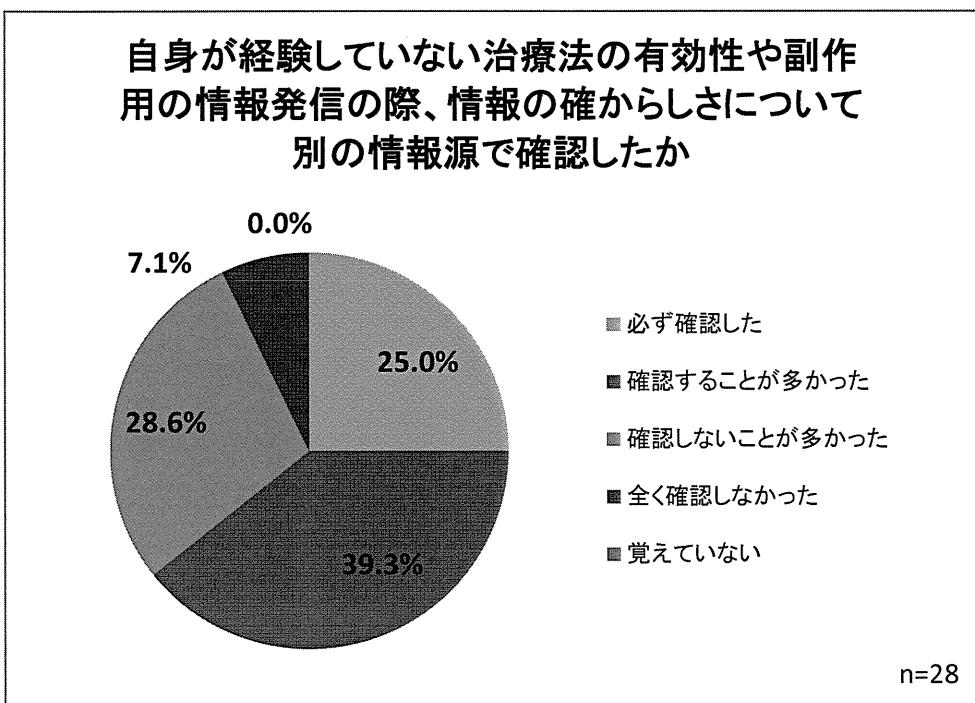


12. (「自身が経験していない治療法に関して情報発信の経験あり」回答者のみ) その治療法の有効性や副作用の話を情報発信した際に、その情報の確からしさについて、別の情報源で確認しましたか。

自身が経験していない治療法について情報発信した人のうち、3人に2人はその情報発信時には別の情報源で裏取りをしていた。「必ず確認した」「確認することが多かった」の合計で64%であった。

n=28 (SA)

| | n | % |
|--------------|----|--------|
| 必ず確認した | 7 | 25.0% |
| 確認することが多かった | 11 | 39.3% |
| 確認しないことが多かった | 8 | 28.6% |
| 全く確認しなかった | 2 | 7.1% |
| 覚えていない | 0 | 0.0% |
| 計 | 28 | 100.0% |

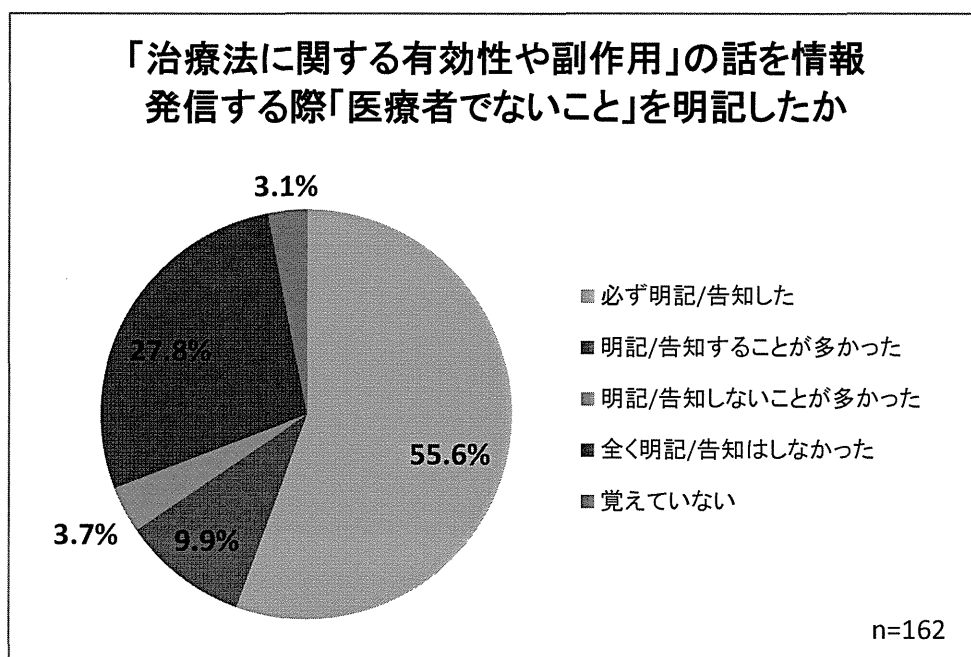


13.「治療法の有効性や副作用について情報発信の経験あり」回答者のみ「治療法に関する有効性や副作用」の話を情報発信した際に、あなたが「医療者でないこと」を明記しましたか。

情報発信時に、発信者の立場（「医療者ではない」）を明確にした人は3人に2人。「必ず明記」「明記することが多かった」の合計で65%であった。

注:「私は医療者である」=5.8%を、母数から除外して集計

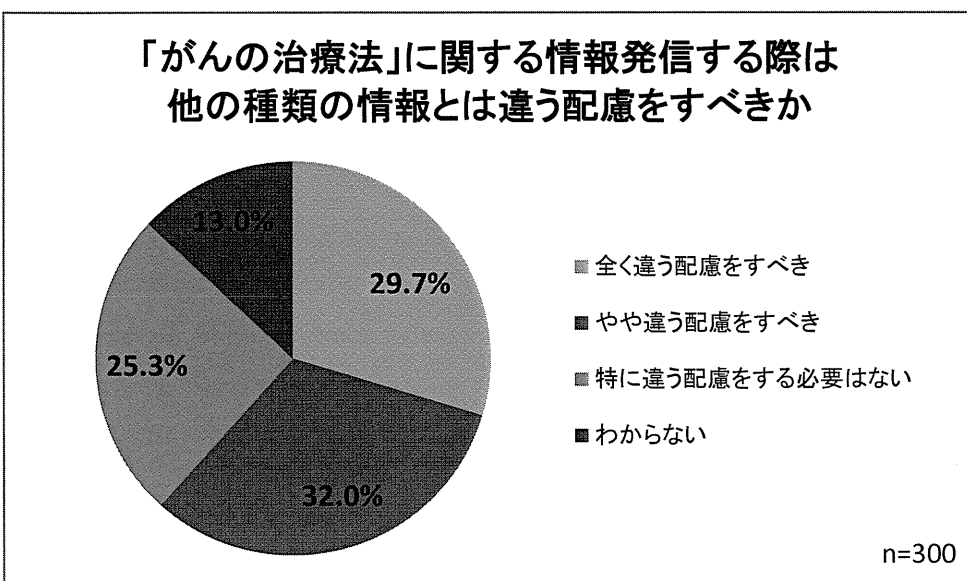
| | n | (SA) % |
|-----------------|-----|-----------|
| 必ず明記/告知した | 90 | 55.6% |
| 明記/告知することが多かった | 16 | 9.9% |
| 明記/告知しないことが多かった | 6 | 3.7% |
| 全く明記/告知はしなかった | 45 | 27.8% |
| 覚えていない | 5 | 3.1% |
| 計 | 162 | 100.0% |



14. (「情報発信の経験あり」回答者のみ)「がんの治療法」に関する情報発信する際には、他の種類の情報(例えばグルメ情報)を発信する場合とは違う配慮をすべきだと思いますか。

「がんの治療法」情報は特殊なものとする人が6割であった。グルメ情報などと「全く違う」「やや違う」配慮をすべき、とそれぞれ3割ずつの人が考えている。「わからない」と判断保留する人も13%と少なくない。

| | (SA) | |
|----------------|------|--------|
| | n | % |
| 全く違う配慮をすべき | 89 | 29.7% |
| やや違う配慮をすべき | 96 | 32.0% |
| 特に違う配慮をする必要はない | 76 | 25.3% |
| わからない | 39 | 13.0% |
| 計 | 300 | 100.0% |



15.「がんの治療法に関する情報発信は他の情報発信とは違う配慮をすべき」回答者のみ」具体的にはどんな配慮をすべきと思いますか。

具体的に配慮すべき内容としては、「正確性」「プライバシー」などを挙げる人が多い。ただし「当事者の気持ちを考えて」「不安にさせない」「主観的、感情的にならない」など、相手次第では反対の受け取られ結果になる可能性があることを言う人も多く、現実的には難しい内容だ。また、「安易に大丈夫と言ってはいけない」など、ケースバイケースの判断をしたうえで対応を要求する人も少なくない。

主な回答内容(内容読み取りによるもの)

| |
|---------------------|
| 正確で信頼性のある情報を伝えること |
| がん当事者の気持ちを考えて発信すること |
| プライバシーを重視すること |
| 主観的、感情的にならないこと |
| 必要以上に不安にさせないこと |
| 軽はずみではなく、慎重に書くこと |
| 言葉や表現を選ぶこと |

「すべき配慮」とされたものから文字数が多い回答内容を以下に掲載する。

| | | | |
|----|-----|--------|---|
| 本人 | 子宮 | 女性 40代 | 食品などはコミュニティ感覚が必要ですが、癌などの内容は精神的なケアも必要とするのではないのでしょうか。 自分は検査後告知で直接聞いたけれども最初は意識できるほど理解するまでに結構な時間がかかりました。 治療後も深刻なものではないこともあって周囲も深刻ではなく、治療後の検査時に始めて自分の体に何が起きたのか実感して恐怖に支配されました。誰も心をケアしてくれるわけでもなく結婚したばかりで癌という内容に目の前が絶望的に。現在は口に出して誰かに伝えることは出来ますが、あのときの恐怖は伝えられるものではないです。 配慮ということならば乗り越えたといっても強く押しでた会話ではなく、経験のない人達が会話を中心とするものでもなく、経験者やこれから携わっていく方たちとの会話の中でまとめていくことが良いと思います。一つ・二つの題材を前に様々な回答の中から数個の内容にまとめてみるという形にするとか、経験と言っても人それぞれ期間や症状も違います。そのなかで一つのを題材にまとめると言うのはそれこそ配慮に欠けてしまうかもしれないという思いがあります。 |
| 本人 | 肺 | 男性 20代 | 似非の情報であったり、体験したことのない人が想像で作られた情報であったり、情報社会の中で惑わせるものが多い。 食事療法にしても、体良くいえば、バランスよく食事してくださいということを一つの素材に着目させて、誘導するような記事を多く見かける、そこにはなんの根拠もないのに。がん患者よりも、その周りの人々が困惑する情報を載せたり惑わせることで社会で受けた鬱憤を晴らそうとする人もいました。 正しい情報を載せたいのなら、ガンなどの重たい病に至っては、有料化ないしは、それなりに医療に携わる人のみにしたほうがいい気がします。 |
| 本人 | 乳房 | 女性 40代 | グルメ情報などによくある、クチコミなどは、全くあてにならないと思う。 正確な情報を、患者さんのそれぞれの状態に合わせて提供する必要があると思うので、紛らわしかったり、誤った情報を発信したり、それによって誤った情報の理解を患者さんが行った場合、適切な治療が行われることを阻害する可能性があります。 また、思い込みや誰でも同じだと思うような事になると、精神的な部分での問題が発生する可能性もあるため責任は重いと思う。 生存期間に大きく影響する可能性もあるので、絶対にきちんとした配慮が必要。 |
| 本人 | 前立腺 | 男性 60代 | 病気の度合いや治療方法は個人によって大きく異なることが多く、自分の経験がそのままあるいはある程度、他人に当てはまることは少ないため、自分の経験を述べたところで、他の人にとってはあまり当たらないし、害にさえなってしまうことが多いと思われる。従い、自分の経験、治療方法を関係者に伝えるという意思があっても、それは特定の人にとってはいい効果がある場合もあろうが、誤解による悪影響のほうが多いように思う。 |

15. (「がんの治療法に関する情報発信は他の情報発信とは違う配慮をすべき」回答者のみ) 具体的にはどんな配慮をすべきと思いますか。(つづき)

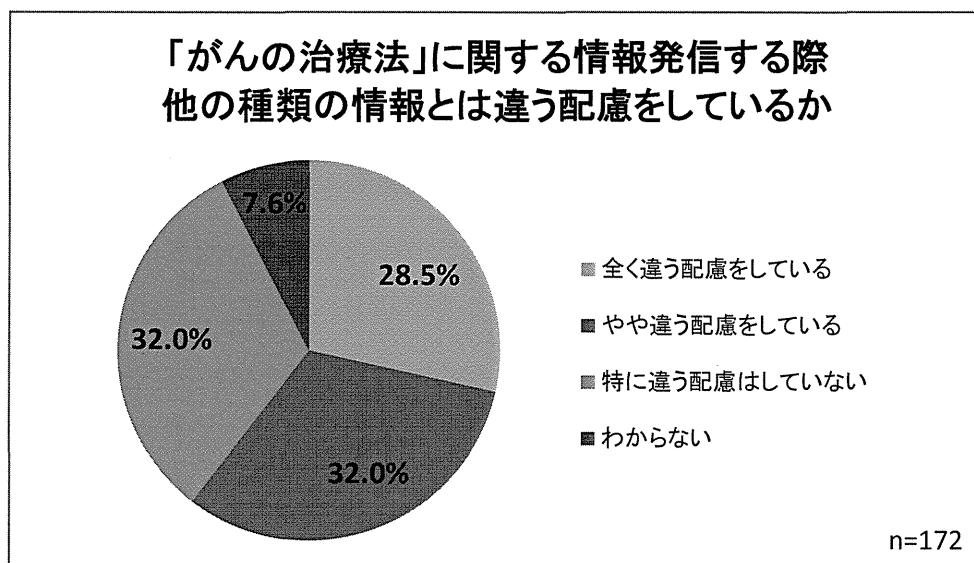
| | | | |
|----|-------|--------|--|
| 家族 | 大腸・直腸 | 女性 40代 | タウン情報やバーゲンセール情報と同一のスペースに掲載されていたら、情報源として本当なのか？ゴシップ的な軽いノリで書いてあるのかと疑ってしまう。きちんとした特集として、信頼ある医師や専門機関からの取材や情報提供のものであると、一目でわかるような書き方じゃなければ、良く読み流すだけ程度になってしまう。ただし、不安をあおるだけのような見出しばかり派手なものだけではないが。 |
| 家族 | 大腸・直腸 | 女性 40代 | 一般的に、日ごろからテレビ等で「がん」という言葉を聞くことが多くなってきたが、非常にメンタルなことなので、実際の患者や家族は不安でいっぱいだと思う。情報が多過ぎて、正解か不正解かの判断も、わからなくなってしまうことがあると思うので、きちんとした統計、実績をもとに、不安をあおるような情報は、決して流さないような配慮をして頂きたいと思う。 |
| 本人 | 乳房 | 女性 40代 | 専門的なこと(治療法、薬の効能)は話すべきではないと思う。医療は日進月歩でし、私の治療、薬が他の方に有効かどうか、がんにも種類が沢山あるし(乳がんでも細かく分けると7種類ある)、ドクターによって治療法も変わるので安易に公開するべきではないと思う。専門的なことはプロにお任せし、心のリフレッシュをしていただけたらと思い、話をしています。 |
| 本人 | リンパ腫 | 男性 40代 | いまさらどこの店(医者)がいいかなんて情報は蔓延しているのではいけないでしょ？私のように告知がしっかりしていなかったために精神的に病んでしまった人たちに、次の道の一例を示せばいいと思う。その時の病状というたどり着く場所は一つしかないけど、そこにたどり着くための往く途は幾つもあるはずだ。その途の一つだけでも紹介できれば良いと思う。 |
| 家族 | 胃 | 女性 40代 | 自分が情報を得、感じたことを発信するわけだが、他と違い人の生死にかかわるわけだから「個人の主観」という逃げ道が大きくなりすぎてはいけない。正確性に欠ける情報は発信すべきでないし、読む方は自分に受け入れられる特定のケースだけを信じることも多い。あくまで多くの事例の一つのケースであることを書き手が念を押して発信すべきである。 |
| 家族 | 膀胱 | 男性 50代 | グルメ情報では直感的で個人的印象を表現する事で受け側への配慮は重要ではないと思うが、がん治療に関する情報発信では間違った情報を伝えないよう配慮が必要です。治療を受けて感じた事、感想は個人差があることを伝えておくことが大切で、医師の治療方針を否定するような発言はしないようにすべきです。 |
| 本人 | 乳房 | 女性 40代 | 食べ物の味は食べる人の好みに左右されるし、またそれは生死に直結するようなものでもないもので誰が何を言ってもかまわないと思うが、病気の治療は、例えば民間療法などのように科学的根拠のないもので、一部の人には効果があるのかもしれないが、怪しげなものまで紹介されては混乱の元だと思うから。 |
| 家族 | 前立腺 | 女性 40代 | 治療法に関してもメリット・デメリットをきちんと説明したうえで、さらに効果も個人差があること等を踏まえるべき。批判となるような内容は医師・病院側には不利益になるが、一方、治療を受ける患者側としてはそのような負の情報もきちんと知りたいので、そこもむやみやたらに規制しないことも必要。 |
| 本人 | 子宮 | 女性 50代 | 自分の場合は医療情報ではなく、「体験談」であることを明記した。また患者にとっては深刻でデリケートな問題であるため、表現等も配慮すべきだと思う。逆にいうと、客観的な医療情報は別として、がん体験のない人がうかつなことを書いてほしくない。(例:大丈夫ですよ、等の励ましの言葉) |
| 本人 | 乳房 | 女性 40代 | 私は乳ガンだったので、手術してからがスタートでした。辛い治療が続き気分も鬱状態になっている状態から楽しい情報と一緒にされると更に落ち込んでしまう。ガンの種類によってその後の治療は人それぞれ違いがあると思うが、健康な人にはわからない苦しみがあるので配慮が必要であると思います。 |
| 本人 | 子宮 | 女性 30代 | 間違った情報を流さないようにすること。子宮頸がんの場合、人によっては「遊んでいる人がかかる病気」という偏見を持った人もいるので、その偏見を持たれないようにする配慮。患者さんの中には非常にナーバスになっている人もいるので、文章の表現や扇情的な文章は避けるべきだと思う |
| 家族 | 肺 | 男性 40代 | グルメ情報など直接人命や日常生活に支障をきたすものではない場合は個人的感想や推測を交えた情報でもさほど重大な問題にはならないが、ガン等疾病関連情報は生死に関わるので、科学的医学的根拠の乏しい民間療法など、不確かな情報を(例えば効果が見られたと思われても)発信すべきではない |
| 本人 | 卵巣・卵管 | 女性 40代 | いち患者の視点であり、医療従事者でない意見、ということを書いてあつてしかるべきだとは思いますが。治療をする側でなく、「される側」の「体験談」であり「個人の感想」であることが記されていてよいと思います。特に副作用は個人ごと大きく違うので「あくまでも私の体験」になるからです。 |
| 本人 | 子宮 | 女性 50代 | 嗜好の問題ではなく、直接命に係わる情報なので、必ず正確でなければならぬし、安易に希望をもたせる様な内容であつてはいけない。がんの種類・性格・治療法も多岐にわたり、経験者であっても、その中の1部にしか触れていないことを肝に銘じて、貴重な経験情報を発信すべきだと思う。 |

16.「治療法の有効性や副作用について情報発信の経験あり」回答者のみ「がんの治療法」に関する情報発信する際に、他の種類の情報(例えばグルメ情報)を発信する場合とは違う配慮を、実際にしていますか。

前々問の「べき論」の通りに「実践」しているのかを確認するための設問だが、ほとんどの人が「べき論」通りに「実践」をしている。(「全く違う配慮」をすべきとした人は実際に「全く違う配慮」をし、「違う配慮をしない」べきとした考える人は実際に「特に違う配慮をしていない」)

n=172 (SA)

| | n | % |
|--------------|-----|--------|
| 全く違う配慮をしている | 49 | 28.5% |
| やや違う配慮をしている | 55 | 32.0% |
| 特に違う配慮はしていない | 55 | 32.0% |
| わからない | 13 | 7.6% |
| 計 | 172 | 100.0% |



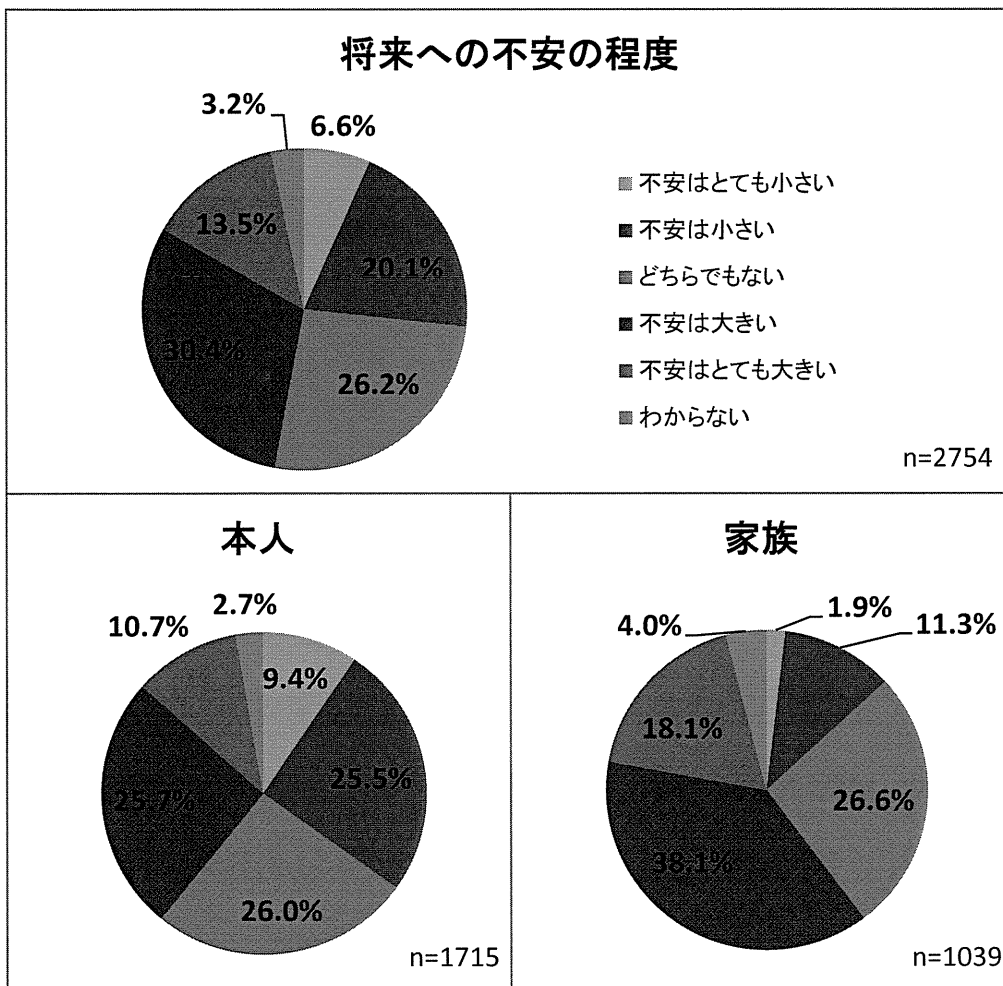
17.あなたの「将来への不安」の程度を教えてください。

将来に対する不安は、本人よりも家族の方が大きい。本人では、不安が「小さい」と「大きい」人の割合がほぼ同じだが、家族では「大きい」と回答する人が4倍以上多かった。

n=2754

(SA)

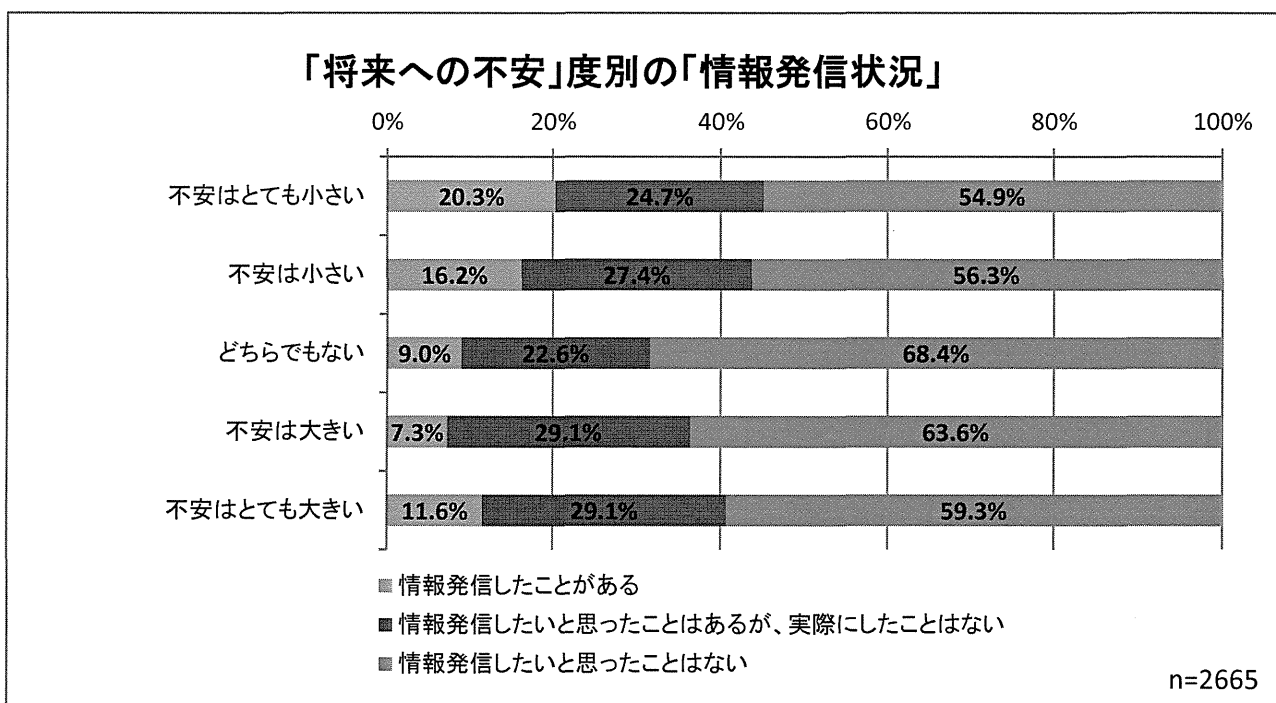
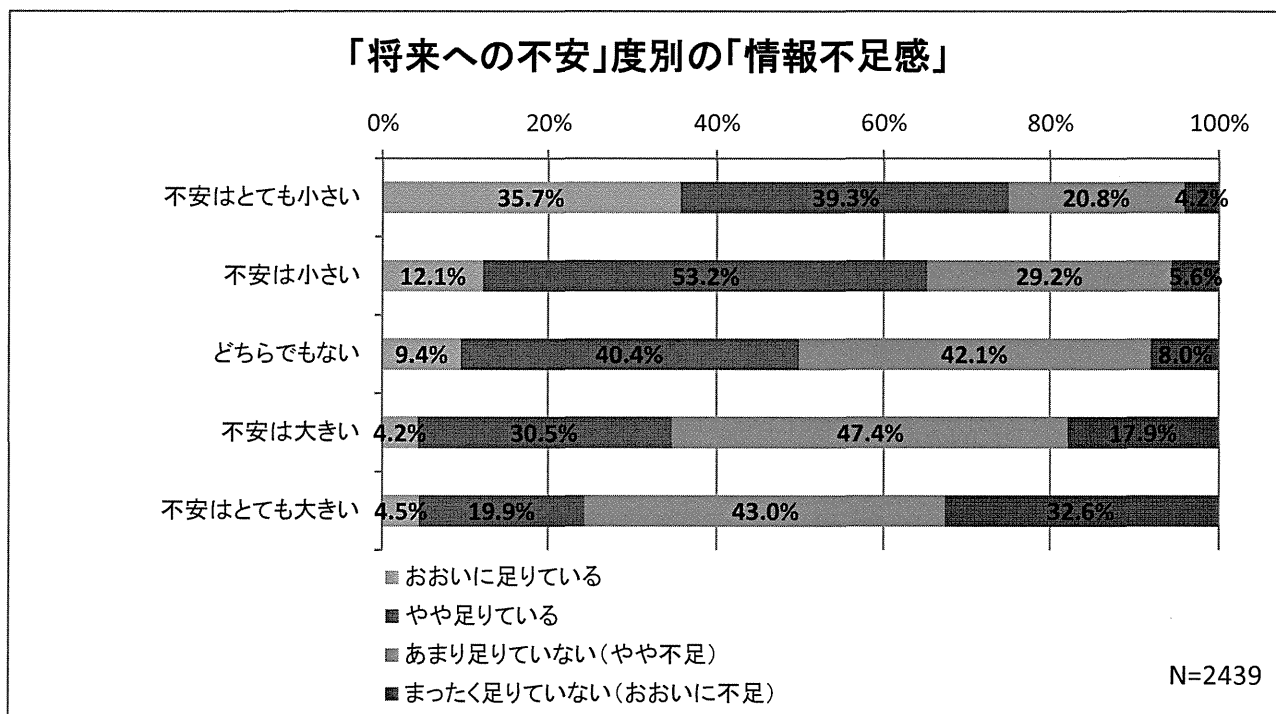
| | 本人 | 家族 | n | 本人 | 家族 | % |
|-----------|------|------|------|--------|--------|--------|
| 不安はとても小さい | 162 | 20 | 182 | 9.4% | 1.9% | 6.6% |
| 不安は小さい | 437 | 117 | 554 | 25.5% | 11.3% | 20.1% |
| どちらでもない | 446 | 276 | 722 | 26.0% | 26.6% | 26.2% |
| 不安は大きい | 440 | 396 | 836 | 25.7% | 38.1% | 30.4% |
| 不安はとても大きい | 183 | 188 | 371 | 10.7% | 18.1% | 13.5% |
| わからない | 47 | 42 | 89 | 2.7% | 4.0% | 3.2% |
| 計 | 1715 | 1039 | 2754 | 100.0% | 100.0% | 100.0% |



17.あなたの「将来への不安」の程度を教えてください。(つづき)

「将来不安感」は、「情報不足感」と相関関係にあり(相関係数0.34)、情報が足りないと感じる人ほど将来に不安を感じていることがわかった。

「情報発信状況」とはあまり相関が強くないが、「とても安心(不安が小さい)」または「とても不安」なほど、情報発信意欲が大きく、この傾向は患者本人、家族のいずれでも同様であった。中庸の人は情報発信欲があまりない。



※「わからない」回答者は除外して集計

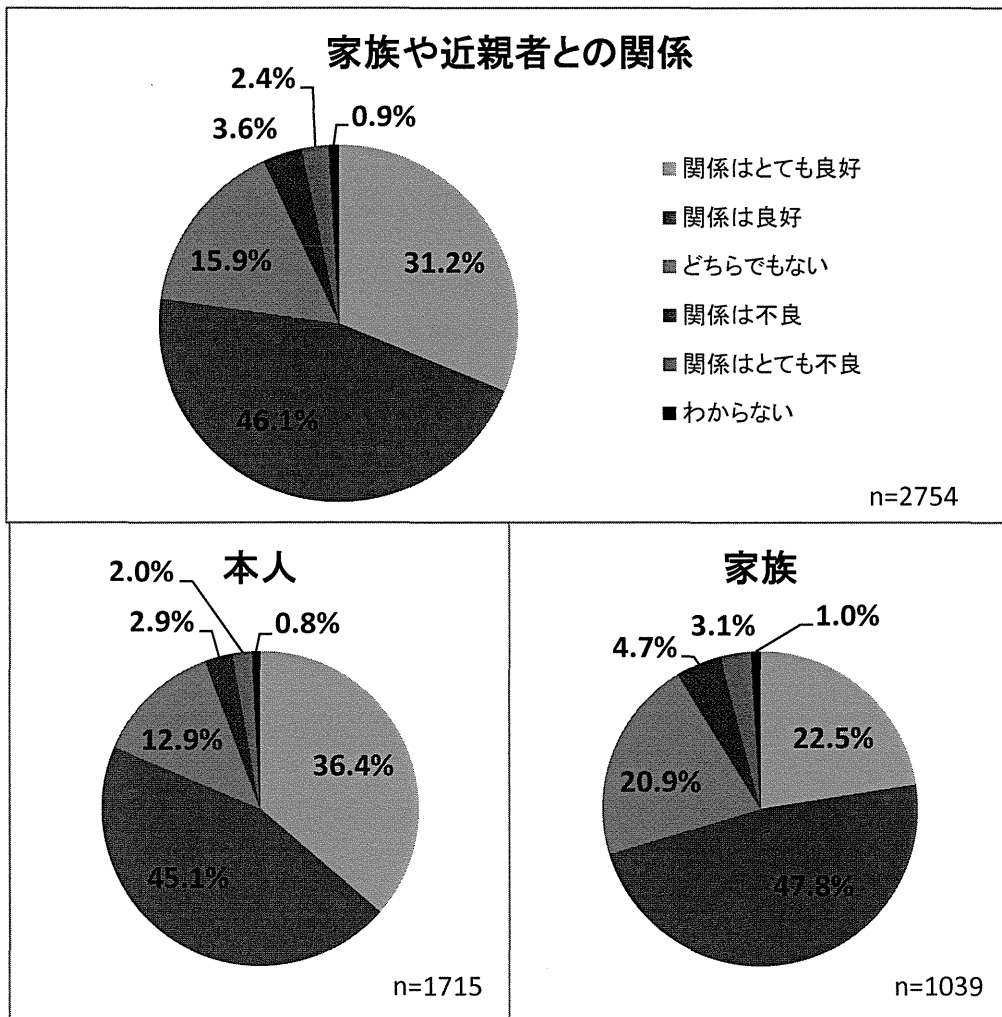
18.あなたの「家族や近親者との関係」の状態を教えてください。

「家族や近親者との関係」については、3割が「とても良好」である。「良好」もあわせると77%が良い関係にあるようだ。

n=2754

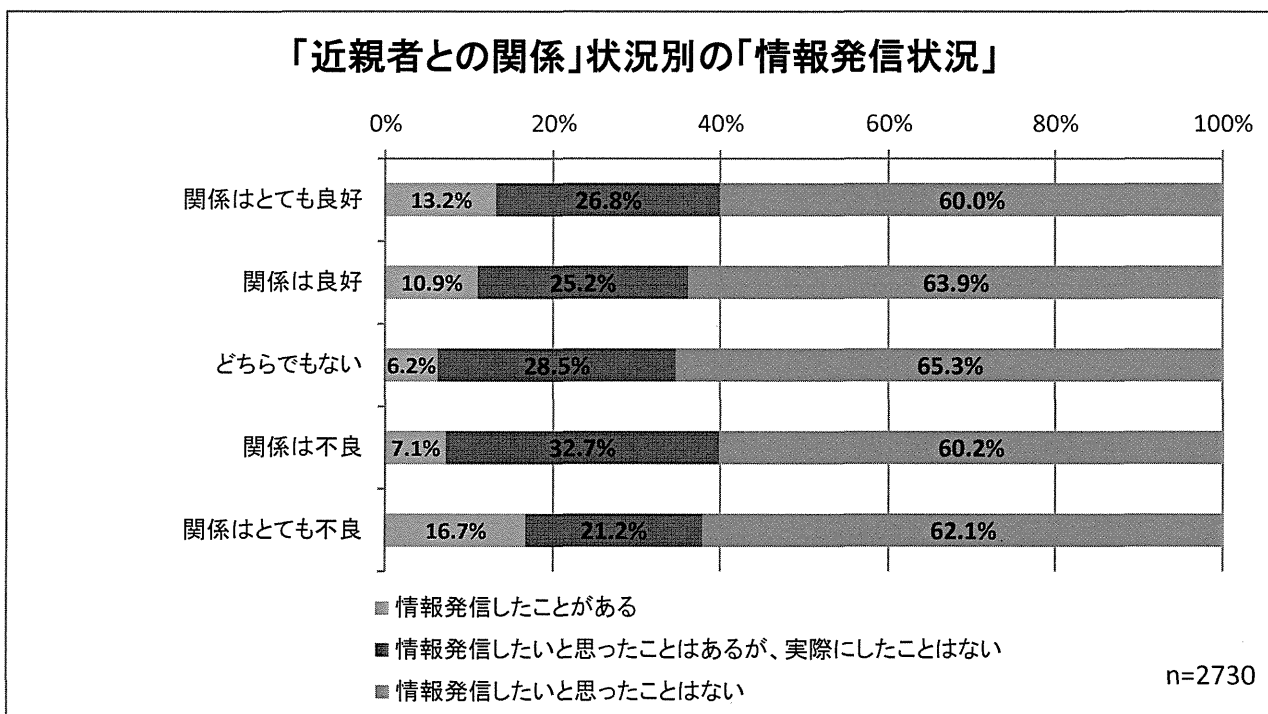
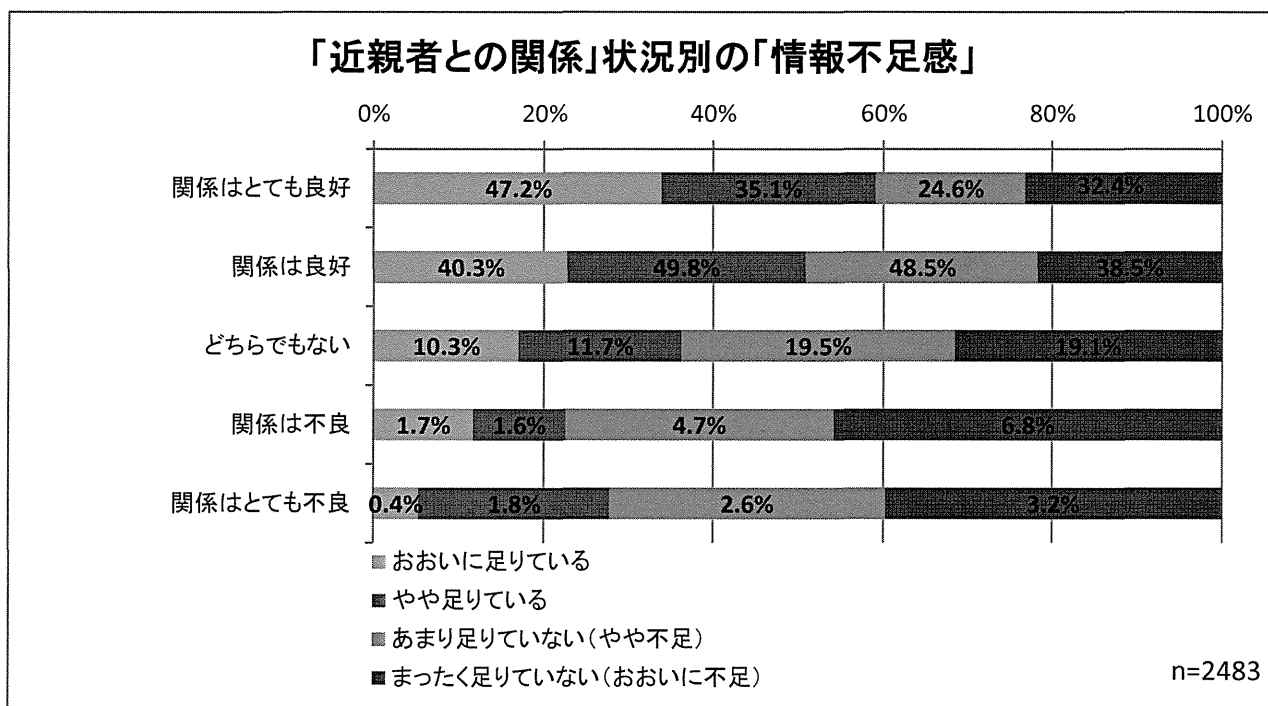
(SA)

| | n | % |
|----------|------|--------|
| 関係はとても良好 | 858 | 31.2% |
| 関係は良好 | 1270 | 46.1% |
| どちらでもない | 438 | 15.9% |
| 関係は不良 | 98 | 3.6% |
| 関係はとても不良 | 66 | 2.4% |
| わからない | 24 | 0.9% |
| 計 | 2754 | 100.0% |



18.あなたの「家族や近親者との関係」の状態を教えてください。(つづき)

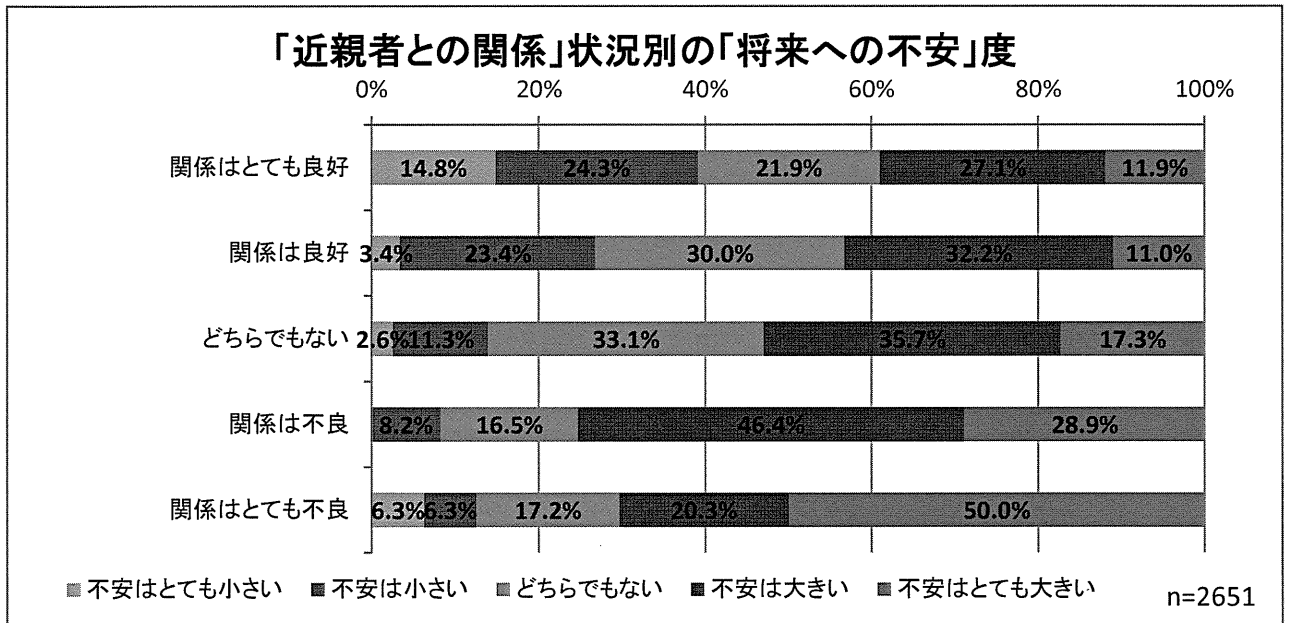
「情報不足感」とは弱い相関がみられるが、「情報発信状況」とはあまり関連性がみられない。



※「わからない」回答者は除外して集計

18.あなたの「家族や近親者との関係」の状態を教えてください。(つづき)

なお、近親者との関係が不良な人ほど「将来への不安が大きい」傾向にあった。

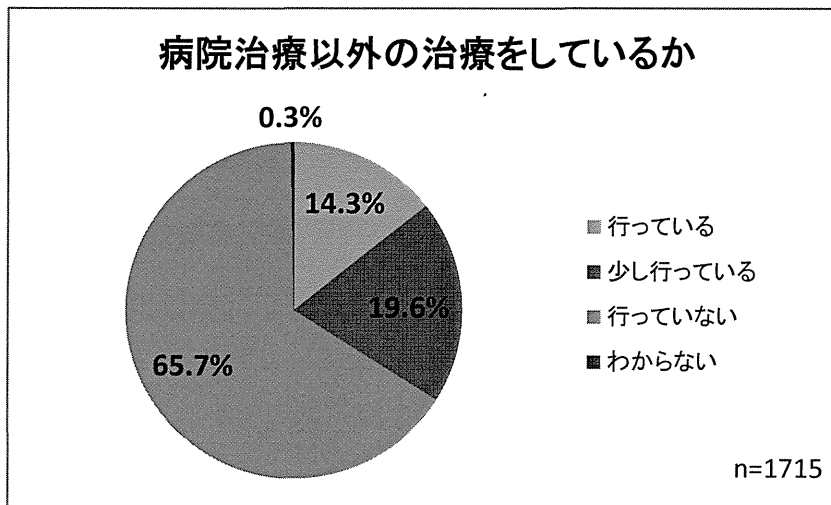


※「わからない」回答者は除外して集計

19.(患者本人のみ)現在、「病院治療以外の治療(例:健康食品やサプリメントの摂取、針灸など)」をしているか教えてください。

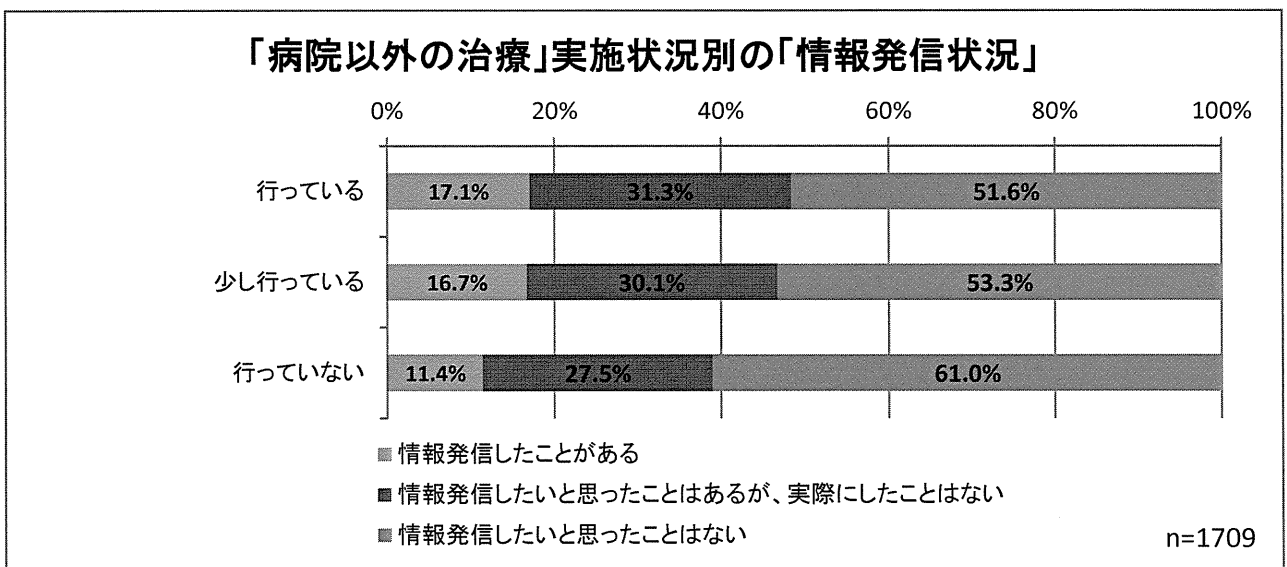
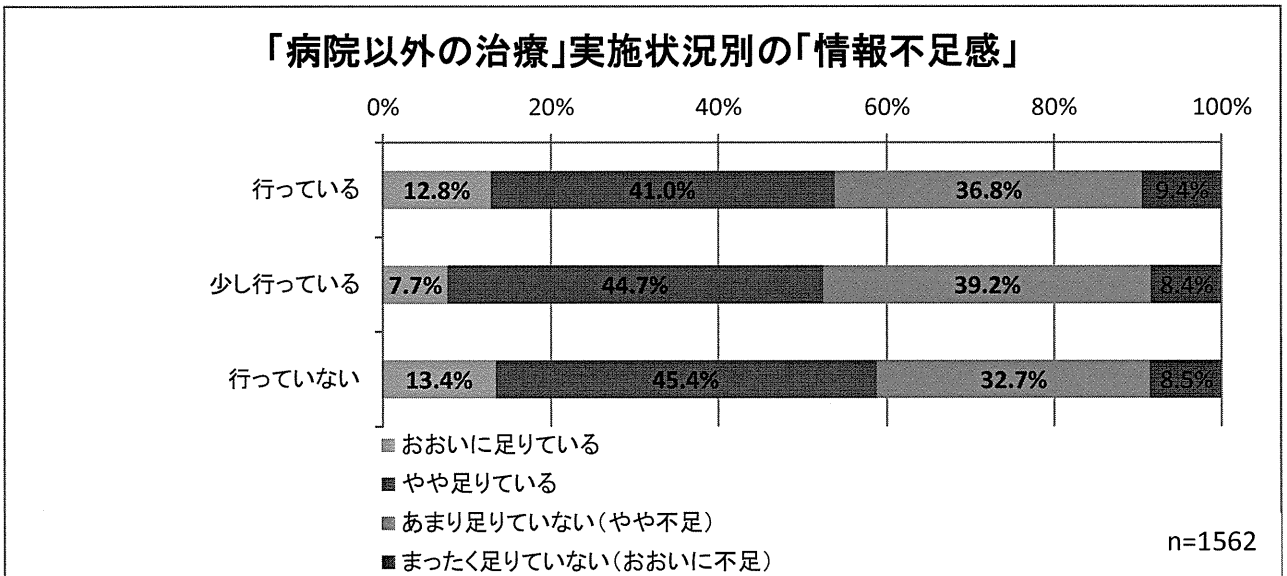
いわゆる民間療法など、病院治療「以外」の治療の実施状況を確認した。すると、34%の人が多かれ少なかれ「行っている」と回答した。

| | (SA) | |
|---------|------|--------|
| | n | % |
| 行っている | 246 | 14.3% |
| 少し行っている | 336 | 19.6% |
| 行っていない | 1127 | 65.7% |
| わからない | 6 | 0.3% |
| 計 | 1715 | 100.0% |



19. (患者本人のみ) 現在、「病院治療以外の治療(例:健康食品やサプリメントの摂取、針灸など)」をしているか教えてください。(つづき)

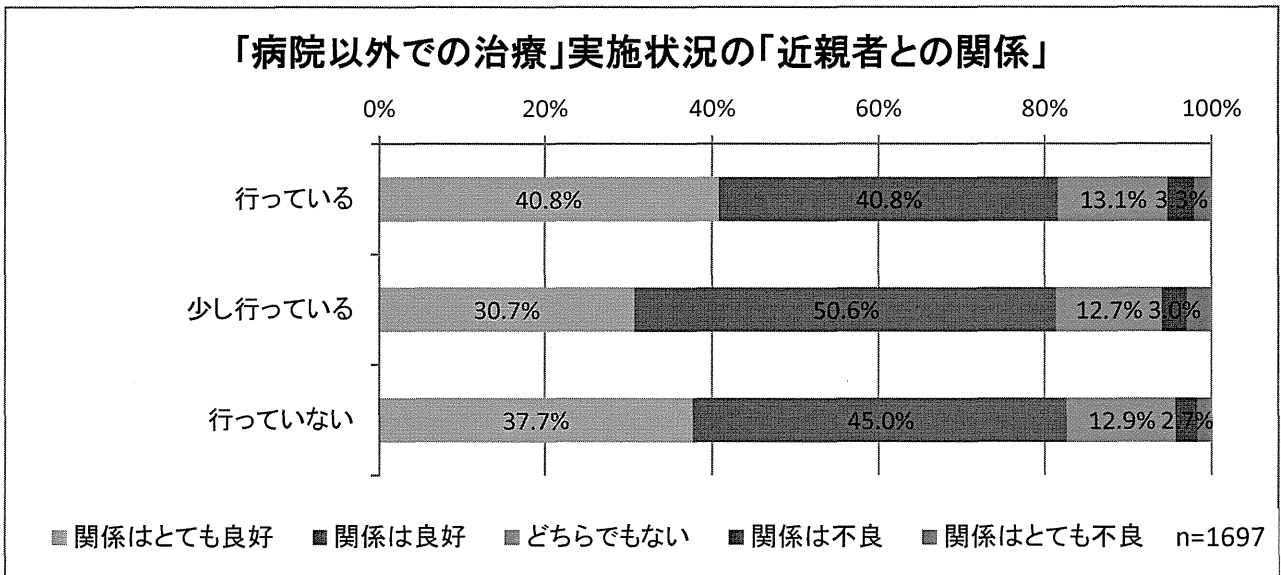
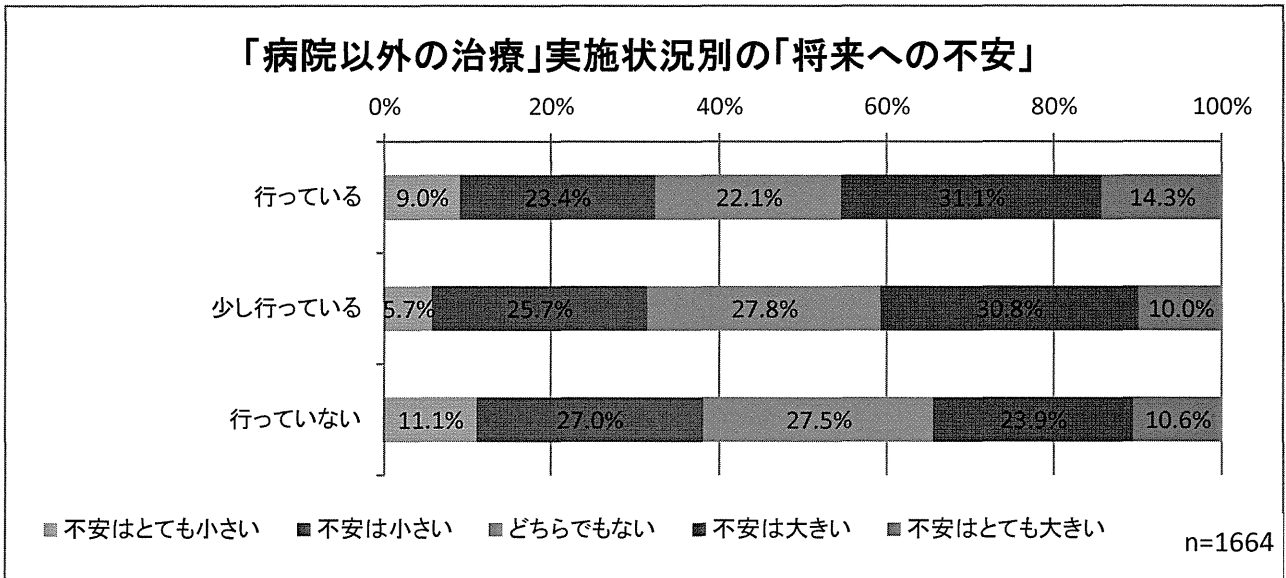
民間療法の実施度合いは、「情報不足感」とあまり関係がない。つまり情報を得ていると感じている人ほど、または足りないと感じている人ほど民間療法に手を出すというわけではない。「情報発信状況」ともあまり強い相関がみられない。



※「わからない」回答者は除外して集計

19. (患者本人のみ) 現在、「病院治療以外の治療(例:健康食品やサプリメントの摂取、鍼灸など)」をしているか教えてください。(つづき)

なお、民間療法を行っているか否かと、「将来への不安」や「近親者との関係性」の間にはあまり関係がなかった。



本調査に関するお問い合わせ先:

株式会社QLife 広報担当 田中 智貴
TEL : 03-3500-3235 / E-mail : info@qlife.co.jp

<株式会社QLifeの会社概要>

会社名 : 株式会社QLife(キューライフ)

所在地 : 〒100-0014 東京都千代田区永田町2-13-1 ボッシュビル赤坂7F

代表者 : 代表取締役 山内善行

設立日 : 2006年(平成18年)11月17日

事業内容 : 健康・医療分野の広告メディア事業ならびにマーケティング事業

企業理念 : 医療と生活者の距離を縮める

URL : <http://www.qlife.co.jp/>

資 料

【厚生労働科学研究費補助金(第3次対がん総合戦略研究事業)】

がんと向き合い、 よりよく生きるために

「患者視点情報」の可能性と課題

2013年

12月7日(土) 13:30～16:00
(受付開始 13:00～)

会場 ベルサール飯田橋駅前 Room1

東京都千代田区飯田橋3-8-5 住友不動産飯田橋駅前ビル1・2F
「飯田橋駅」A2 出口徒歩2分(東西線・有楽町線・南北線・大江戸線) / 「飯田橋駅」東口徒歩3分(JR線)

主催

平成25年度厚生労働科学研究費補助金(第3次対がん総合戦略研究事業)
【国民のがん情報不足感の解消に向けた「患者視点情報」のデータベース構築とその活用・影響に関する研究】班 研究代表者 中山健夫

PROGRAM

- 中山 健夫 京都大学大学院医学研究科
【国民のがん情報不足感の解消に向けた「患者視点情報」の可能性と課題】
- 山口 建 静岡県立静岡がんセンター
【患者家族支援の手法について】
- 吉田 雅博、奥村 晃子 国際医療福祉大学臨床医学研究センター
【診療ガイドライン・医学系学会における患者視点情報について】
- 栗山 真理子 日本患者会情報センター
【社会資源としての患者会とは - 可能性と足りないこと -】
- 菅野 摂子 NPO 法人 健康と病いの語り ディベックス・ジャパン
【大腸がん検診の語りデータベース構築・インタビューを終えて】
- 射場 典子 NPO 法人 健康と病いの語り ディベックス・ジャパン
【患者の語りデータベースの教育的活用について】
- 石井 保志 健康情報棚プロジェクト
【乳がん闘病記分析の取り組み】
- 山内 善行 株式会社 QLife (キューライフ)
【患者・家族からの「がん情報発信」の実態、意義、課題】

参加費無料!

〈事前登録制です〉
申込締切日は
11月末日まで

▶ お申し込み方法

参加ご希望の方は下記事項
をご記入いただき、メール
でお申し込みください。

- ・氏名
- ・フリガナ
- ・職業または学校名(学年)
- ・メールアドレス

お申し込み用アドレス
pt-views@umin.ac.jp

※件名欄に
「がんフォーラム申込」と
ご記入ください。

※折り返し受付完了メール
を返信致します。